



なんでやねん

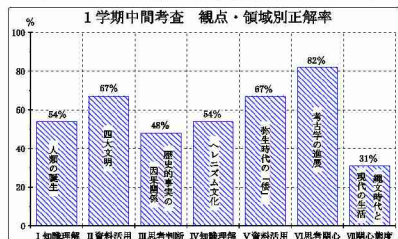
発行責任者 倉橋 忠



No. 1 2 - 1 / 4

中間考査の結果をまとめました

2年生になったの最初の中間考査。採点していて『1年生の時よりも、よく勉強しているなあー』という印象をもちました。



言うべき82%を示しています。これは、どのクラスでも授業に集中している人が多いことの現れだと思っています。

その一方で、「歴史的事実の因果関係」を整理できるかどうかを試した問題では、48%と低い正解率を示しています。授業で使用している「ノートプリント」の「→」印の意味を考えながら復習する、ということが足りないようです。授業中にも何度も強調しているように(あとでも説明しますが)、歴史を学ぶ最も重要な内容は、この歴史的事実の「因果関係」を理解・推理することです。この点の学力をつけるためには、日常生活の中で科学的な視点からものをとらえる練習をしておかなければならないでしょう。いいかえれば、豊富な生活体験を積み重ね、その生活体験を科学的な視点で理解し直すことをくりかえすことによって、この「社会的思考・判断」の学力の基礎ができあがります。いわゆる「受験勉強」をいくら重ねても、この学力の基礎部分は形成されません。あせらず、ま

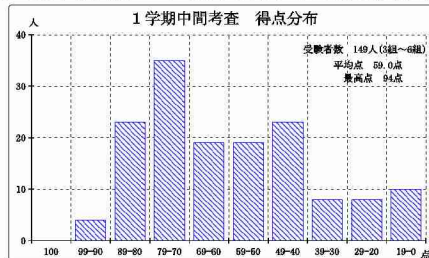


じめにふだんの生活・活動に汗を流しつつ、考えることが、特に重要な意味をもつ場面です。

たとえば、『そうじ』の時に、『どうサボるか』ではなく、『どうしたら、きれいになるか』と考えることです。この発想があつてこそ、人類の歴史は発展してきたのです。

自分の体験を通して、人類の歴史を考えるヒントにすることが、歴史を学ぶ基本だと言ってもいいでしょう。

さて、今回のテストでは、答案を返却した時にも説明しましたが、かなり厳しい採点をしました。漢字の誤りを一切認めず、記号で答えるべきところを記号で答えていない答案もすべて「×」にしました(内容的には正解の答案がほとんどでした)。そのために、「I」や「V」の正解率が下がっています。問題文を注意深く、かつ、ていねいに読む習慣をつけて欲しいからです。問題文の指示に従っていない答案は、正解になりようがないのです。今後の成長に期待します。



歴史の勉強のどこがおもしろいねん

作文の出題のねらいと、作文を採点して思うこと

われわれが生きている現代は、歴史が積み重ねられた社会の結果としての現代です。もし、人類がサルから進化した動物であるとすれば、人類の今日の暮らしと、サルの暮らしとを比較したときに、人類の歴史が見えてきます。

これを算数的に表せば、

(人類の今日の社会・暮らし) - (サルの社会・暮らし) = 人類の歴史
という等式が成り立ちます。また、これを縄文時代の人々の生活と現代の生活との関連にあてはめると、

(現代の生活) - (縄文時代の人々の生活) = 日本の社会の歴史
という数式ができあがります。今回の「作文」の課題は、この数式(計算式)のおおよその形を考えてもらう意味をもってい





なんでやねん

発行責任者 倉橋 忠



No. 1 2-2 / 4

した(詳しい内容は、これからの学習内容になりますけどね)。この数式の正確な解答を出すためには、それぞれの項目(現代の生活)と(縄文時代の人々の生活)についての、正確な理解が必要になります。現代の生活を客観的に知らないものが、仮に縄文時代の生活を知ったところで、「正解」は出せないのです。もちろん、縄文時代の生活についても、正確な理解が必要になります。この意味で、今回の「作文」は、1年生のときに学習した地理的分野の内容を理解しているかどうかを試す問題でもあったのです。

たとえば、
今日の日本

は、食料供給
率が極端に低い
国です(右の
表参照)(その
低さは、工業
先進国の中で

	日本	アメリカ	イギリス	西ドイツ	フランス	イタリア
穀物	30	109	105	106	222	80
食用穀物	67	182	97	113	241	79
小麦	15	186	99	116	249	74
うちわけ 粗粒穀物	2	95	117	99	203	81
いも類・でんぷん	93	97	90	99	104	86
豆類	8	123	106	27	136	57
大豆類	91	97	88	40	86	122
野菜類	63	82	11	41	63	112
肉類	70	97	81	89	101	73
卵類	98	102	97	71	96	95
牛乳・乳製品	78	100	92	112	116	68

財団法人 矢野恒太郎記念会編 『94/95日本国勢調査』国勢社 1994.6 p.183

は、「群を抜いています」。これを「逆」に言うとか、われわれが食べている食料のほとんどは、われわれの国で生産されていないのです。食料がありあまっているように思っている(作文に書いた)人は、この点が誤りだということを知ってください。また、「スーパー」などで売っているから、現代は楽だと考えている人も、重要な点を見落としています。それは、だれかが「作ってくれている」ということを忘れているのです。今日の社会では、「社会的協業」といって、社会全体で仕事を分担しあっているから、「売っているもの」を買うことができるのです(そのような、「社会的協業」がどのように歴史的に成立してきたのかを、これからの「歴史」の授業で学習していくことになります)。

あるいは、「漁」で考えると、今日の日本では、「採る漁業から、育てる漁業」へと変化していきうとしています。栽培漁業や養殖漁業です。今日のこの点

と、縄文時代の「漁」の間に、「漁」の歴史があります。また、釣りに興味のある人は、釣り針のことにふれていました。ちなみに、縄文遺跡からされる「釣り針」の完成度は極めて高いもので、今日の釣り針と形は全く同じものです。材料が異なるだけなのです(うーん。釣り針はいつごろから作られたのだろうか? また、疑問が一つ増えたなあ)。

おぼえるまえに、考えよう

君は不思議に思いませんか? なんて中国の『漢書』に、日本が記録されているのか。どうして、中国で「倭」のあることがわかったのか。「使い」が倭国から漢に送られたとされているが、言葉の通訳はいたのか? いなかったとしたら、どうして「使い」ができたのか。倭がなぜ、中国(漢など)の国があることを知っていたのか? 考え出せば、きりがなくらい疑問が出てきます。ところが、それらを教科書や参考書は、何も説明しません。「本」に説明されていないから、疑問も出てこない? そんなことはありません。「本」に書いてあることをおぼえようとしているから、疑問が出てこないのです。

実は、「勉強」のおもしろさは、このような「疑問」を解こうとするときに出てくるのです。「わからないから、おもしろい」のです。ちょうど、それは、君たちが幼稚園にはいるまでに何でも「どうして?」と聞き回ったころのように、「知らないことを知るようになる」ことが楽しくなるのです。その学習意欲を忘れていませんか?

先生(倉橋)も、かつては「歴史はおぼえたらええねん」「昔のことやから、変わるはずはない」と思っていました。そう思っていた頃は、「歴史」を学ぶことが、「自分の人生を考える力」になるとは思いもしませんでした。

けれども、今は違います。大学に入ってから、自分で「歴史」を勉強し始めて(大学では「法律」を専門に勉強していました。その合間に、「歴史」を独学しました)、「歴史」がとてもおもしろく、「歴史」を学ぶことが、自分の人生や社会のことを客観的に理解する、とてつもなく大きな力になることを知りました。

先人の経験から、自分の人生を見つめ直すこともできます。また、社会の発展する方向や変化する方向も、ある程度見えてくるようなこともあります。それが、「自分の人生を自分がどう生きるのか」ということを、客観的に考える一つの方法になります。「おぼえる」ことに集中しているような勉強()では、このようなことに気づくことはできなかったでしょう。





なんでやねん

発行責任者 倉橋 忠



No.1 2-3 / 4

今回の「作文」の課題は、

「縄文時代の人々の生活と、現代にくらす自分の生活との間に関連することを具体的にあげ、自分の生活に関して考えることをまとめなさい。」でした。

採点基準は、次の通りです(9点満点)。

- ① 原始時代に自分が生きたことを前提に考えていること(2点)。
- ② 現代生活は、人類の歴史の上になり立っている。現代生活の中から具体的なことがらを指摘し、それについて原始時代の生活と現代生活とが関連することや、それらの比較ができてること。

指摘する歴史的事実1つにつき、2点。

- ③ 縄文時代の社会では、身分差がなかったか、あるいは身分(富)の差があっても、今日ほどの富の差にならなかったことなどが、指摘できていれば、2点。

*論理矛盾がないこと(論理矛盾は、-2点)。

**専門用語を誤りなく使用できていれば1点を加点する。

友だちの「作文」(答案)から学ぼう

次に、君たちの答案から、6点以上を獲得した人たちの「作文」を紹介します。なお、ここに紹介するのは、6点以上の得点をとった「作文」のすべてではありません。

読むときに、注意してほしいことは、

- ①「答案」そのままなので、まちがった内容が入っていることがある。
- ②「答案」に漢字のまちがいや、脱字があっても、そのまま再現しているのも、自分で文を読む必要がある。

の2点です。今後の学習の参考に、じっくり読んでみてください。

3組 H. Y.

現在くらしている生活は確かに便利だ。しかし、縄文時代に、稲作ははじまっていたし、土器も作って、狩りや漁もしていた。現在の生活にそれがほとんど伝わっている。食生活の土台はもうこの時代からあった。

今は、家なんかすごい立派な家とか、かい倉庫とかあるけど、縄文時代にも堅穴住居や高床式倉庫があった。

最近、発見された遺跡で服ができた。その遺跡ではアングインという種類の服の服と思われていたが、平織の服が見つかった。それは今まで使っていた素晴らしい織り方だ。今はミシンとかがあるけれど、その時にもなんらかの織り具があったと考えられる。

食生活には、縄文時代からもうすでにカキの養殖や、肉などのくんせい、貝などを煮て食べるなどということもあった。こうして考えてみると、今は便利なのに機械などを使って簡単にできるようなに進歩した。しかし、それらは縄文時代のころにつくられた土台があってこそなのだ。

3組 M. O.

縄文時代と今の生活ではすごくいろんなちがいがあがる。

食料や住む家など、今はすぐに手に入るけど、縄文時代の人たちは、自分で狩りをし、たべ物を見つけた。木などで家をたてた家だったと思う。服や道具なども、自分たちで生けんに、石を磨いたり、けすたりして作った。いのししや、いろいろな動物を、やりで突きさし、それを食料にしていたり、木の葉やどんぐりなども採集していた。

今の生活はさのようなことをしなくても、スーパーというものがある。でも、縄文時代の人たちのくらしには、そのようなものがない。だから、このようなことをしていけないと、みんなが生きていけない。

3組 M. M.

縄文時代と現在の料理方法は、まったく同じで、例えば、貝を食べるには、縄文時代の煮し方は、まず穴をほって、穴の中に施いた石を入れ、穴の両どりの平らな土地に、石を積み、その石の上に、竹のようなもので作ったカゴをのせ、そしてカゴの上に貝をのせ、最後に、全部をおおげような、ふたを上からかざします。

そして、縄文時代の人々が使用していたものが、今なお、私たちの生活に役立っています。例えば、木器でいうなら、「ししゃも」や、「おはし」です。縄文時代の人々が、いたからこそ、今の私たちの生活があるのかなと思いました。

4組 T. N.

縄文時代、自然の中で狩りや採集をしてくらしていた昔。しかし、今は食べ物がなくて困ることはない。昔は不安定な生活だっただろう。動物がとれないときもあったと思うし、草や葉がならない時もあっただろう。でも、今は食べ物であふれ、縄文時代の食べ物のありがたみを忘れてしまうような気がする(当前ボタ)。縄文時代のこの文化は大きい。今でも縄文人のやってたことをちょっと工夫しただけで昔とそーはかわらない。先生が言った通り「レンジでチン」するがいほとんどいっしょだと思える。昔の人のそういう工夫はものすごいもので、火を使う、木をきる、物をなると誰もおしえてくれる。昔を考えてやった、このことを今は忘れてしまっている気がする。

今ある文化は縄文人が長い年月をへて考えだしたものであるという事をもう一度考えなければならぬような気がする。今、なにげなくやっている動きを考えたのは昔の人であって、えらい人ではない。便利になった今を昔とくらべて「縄文人はあらためてすごいなあ」と思うのがふつうだと思う。

4組 T. N.

縄文時代や弥生時代の人々も、火は使っていたと思うけど、今の時代とはちがって、ガスコンロとかは使っていないので、時間がかかっただろうし大変だったと思う。それに どうして火なんか見つかったのだろう。

それと、今はもう鉄をといだりして、かん簡単に肉を切れるけど、石をするどくして肉を切るなんてよく考えつかないと思う。それにこれらのことは、全部今でも使っているけど考えればほとんど縄文時代の人々が考えついたことをマナをえているだけだ。

なんでやねん

発行責任者 倉橋 忠

No. 1 2 - 4 / 4

5組 T. A.

ぼくは縄文人はすごいなあと思いました。三内丸山遺跡で発見された巨大な竪穴住居 クリの木を何本も使って長さ30m幅9mの家を建てました。いったいこんなのどうやって作るの？と思いました。今まで技術が進んでいないとされたあの縄文人が、あんな竪穴住居を作るなんて思ってもみなかったです。

あとおどろくことに縄文人がカキを養殖していたそうです。カキの養殖は今でもされています。さらにその貝をひしてたべる技術を持っていました。あの文化ではつう生で食べるんじゃないかと思います。

今でも蒸すということはやっています。つまり縄文～現代まで深い関係があるんじゃないかと思いました。縄文人はきょういてきな文化を持っていたんじゃないかと思いました。だから縄文人はすごいと思いました。

5組 A. S.

縄文時代の人々すごい。今から何千年も昔の人々なのにカキの養殖をしたり、稲作をしたりして、今とあまりかわらない時代だと思う。三内丸山遺跡にある クジラの骨や、マゴロの骨などが発見されている。三内丸山遺跡は日本列島の一番はしの方にあるからクジラやマゴロはこの冷たい海水のところには、まちがってはいってこないと思う。それじゃ クジラとかはどうやってとったかというところ何日かけて海水のあたいたかい風潮まで出て、クジラとかをつかまえて村まで帰ってくるの考ええる。今の技術でもマゴロとかをつかまえるのは何日もかかるのにすごいと思った。三内丸山遺跡には直径1mものでかいくりの木のはしらとかがあるのすごい。今はきさいがあるからすぐできるが、昔はなかなかできないと思う。今と昔は電気とかがあるかないかで今より昔のひとは、すごい知恵をもっていたことがわかる。

5組 Y. T.

関連することは平蔵の技術を持っていたり、カキの養殖だと思ふ。ある人は『平蔵は今も使われているすばらしい技術だ』と言っていた。そんな「すばらしい」技術が、縄文時代から使われていたのは驚きだ。三内丸山遺跡では、長さ32mもある大がた住居も見つかった。その柱は直径1m以上もあったという。このごりもつたいな道具さえた時代には6本のものくりの木をたおすのは大変だったと思う。立てるのだったなみの技術では無理だろう。くじらやまぐろをとる技術、遠く離れた所まで行くために小さな船だけで行けたのか？

今は科学が進んだからできるのだろうと思ってはいたけれど それは昔からあった技術かもしれない。昔の人々が磨製石器を作っているのも打製石器を使っているように、今の時代も縄文時代からいるような技術がくわってできたものだろう。私は船は少しづつ無知に作ったというのに驚いた。そのことを知らなかったことと、最初にそうした人はすごいと思った。つけたし、初めてやってみた失敗があったて役立てるだと思ふ。蒸きナゴを食った人たちは気のどくだけど … きたない李だけに気にしないではし。

6組 Y. I.

縄文時代の人々は生きるために狩猟や採集をしているけど、ぼくたちの生活は、そんなことをしなくても食べて暮らすすごく安定した生活をしていると思う。縄文時代の人々は石でできている道具もを作っているけど ぼくたちは店でそういうものを買ったりでできるのですごく便利だと思ふ。だけど縄文人が打製石器や土器や石ぼうちょうを残してくれたおかげで今の道具のおちやわんや、ほうちょうなどが

できているのかもしれない。そしてぼくがおどろいたのはまだこの時、身分差がなかったことだった。この時はまだ食べ物が少なかったから、他の人から食料を取り上げたりしたらその人が死んでしまうので自分も危なくなるというけど、むかしからそんな考えができていたなんてすごいとぼくは思う。それと縄文人はどうやって食料をみんなまで分けていたのかふしぎに思うことだ。もしかしらこの時も、食べ物の量などで少しづつは差別があったのかもしれない。そういう所がわかたらもっと歴史がおもしろくなるかと、ぼくは思う。

6組 D. T.

縄文時代の人々は、食事のバランスを取っているけれど、ぼく達は、バランスを考えずに食事をしていることが多い。

縄文人は打製石器を使って物を切ったりしていたが、今ははきみや包丁など物を切る道具がたくさんあって、ぼくが縄文時代にいたら不便だろうと思った。土器は今のなべの様な物で土器は煮くてもろいだろうけれど土器から鉄器に変わってなべになったと思う。だから土器があったからなべができたんだろうと思った。

縄文人の人は石に登ったのしなののけものを轆でたおして食べていたりしていたけれど 今のぼくたちでは多分できないと思う。それはぼく達がファミコンなどをして精力がおとろえているけれど、縄文人の人は外で遊んだりして外で働くことが多いから狩りなどいろいろな事ができるのだと思った。だからぼくも外で運動を多くするように心がけようと思った。

6組 T. T.

縄文時代の人々は、生きるために、狩猟などを行っている。現代の人々も、一応生きるために働いている。

縄文時代の人々と、現代の人々の目的はまったく違う。縄文時代の人々の使っていた道具と現代の人々が使っている道具は似ている。それは縄文時代の人々が使っていた道具を参考にしようと思う。

今、自分が縄文時代にもどって暮らしたら、8日間も生きられないと思う。縄文時代の人々はすごい技術を持っていた。例えば、カキの養殖や蒸し料理などのやり方を知っていた。自分はこんな知らない。

縄文時代の人々と、自分はすごい差があると思っている。だから、縄文人に負けないように、してきたいと思うが、だぶん無理だ。でも努力していきたい。これが自分の生活に関して考えたことです。

6組 N. M.

縄文時代の人々は縄文土器(今でいえばなべ?)を使って食べものを煮たり蒸したりして生活していた。その縄文時代でやっていた調理法を現代で言うならば「かきこく」調理をしているだけであまり変わりないと思う。縄文人の人たちが煮たり蒸したりして食べていたなべは今でも煮ることを煮くるとは知らなかったかもしれない。縄文時代の人々はえらいと思う。

今では、当たり前のことでも縄文人は必死になって考えたんだろうと思う。例えば土器。今は、ガスコンロがあって 変えるものがあって何でも便利な世の中だけど昔はそんなものはなかった。だから土器をちよっとへこまして その上にフタを掛けて蒸すんだけど、ちよっとふくらまして変えをつくるんだと土器は考えに考えたあげくあーゆう土器の形になったと思う。

6組 N. O.

縄文時代の人々が使っていた『石器』や『土器』を現代人である私たちも使っている。例えば『うすし』とか『お茶わん』とか。

『稲作』でできる『米』も、私たちの生活にかかせない。他にも、いろいろな物とて思うが、縄文時代の人々のつくりあげてきた文化は、今の私たちの生活に大きな役割を果たしている。そして、今の生活に必要なものとなっている。

自分の生活に関して考えることは、「うーん、縄文時代の人々が、もし、こんなものやあんなものをつくらなかったら どうなっていたらだろう」と思う。縄文時代の人々がいろいろのものを つくりだしてくれたから、今の私たちの生活があるんだと思う。縄文時代の人々は、今の私たちの生活の土台なんだと、私は考える。